

【日時】 2018年2月6日(火) 17:30~18:30

【説明者】 取締役・CFO / 横山之雄

**Q.** 日清食品の10-12月の3か月で営業利益率が対前年同期比0.1%悪化しているように見える。広告費の未使用分を考慮すると実質的に減益だと思うが、この要因について解説してください。

**A.** 日清食品の10-12月の営業利益は対前年比で+1億円の増益です。増益要因としては、増収による利益増が約4億円、売上原価の改善が約1億円、広告宣伝費の未使用分\*が約1.5億で、トータルで計6億円となります。減益要因としては、品種構成の変化による拡販費の増加、減価償却費の増加、一般管理費の増加で計5億円となり、差し引き1億円の増益です。

拡販費の品種構成の変化としては「カップヌードル」の伸び以上に、収益性の低い（拡販費の使用比率の高い）「どん兵衛」や「麺職人」、袋めんが第3四半期で売上を伸ばしたことが拡販費比率の増加に影響しています。減価償却費の増加としては「お椀で食べるシリーズ」の設備投資等による償却費増があります。

広告宣伝費は4-12月累計で前期比9-10億円ほど減っていますが、期初計画通りの使用を予定しています。なお、年間で見たとときに営業利益率はそれほど悪化しないと考えています。

**Q.** IFRS 導入による売上と営業利益に与える金額イメージを教えてください。

**A.** 導入が正式に決定した段階で、具体的な数値イメージを交えて説明させていただきます。

**Q.** 第3四半期累計のセグメント別の営業利益について、計画対比の状況について教えてください。

**A.** 年間以外の事業計画は発表していません。全体として計画比ではオンラインで、着地も計画通りを想定しています。セグメント別で好調だったのは日清食品、明星食品、冷凍で、タイは黒字化しました。

一方、海外拠点は基本的に苦戦したと考えています。欧州日清は、売上は好調でしたが、新工場立ち上げの遅れによる影響で利益的には苦戦したと思っています。

Q. 日清食品等、国内事業で物流費や労務費等は増加しているのでしょうか。

A. 物流費は増加傾向ですが、それほど大きな影響ではありません。労務費は今後増加してボディーブローのように効いてくる可能性があります、現時点で大きく影響している感じはありません。この他に、減価償却費は増加しています。

Q. 海外事業の第3四半期までの評価について教えてください。

A. 欧州では、売上はしっかり伸びていますが、利益面では新工場の生産の立ち上げの後の影響がありました。

アジアは、売上自体は伸びています。インドでは GST や競合のシェアの巻き返しのための安売りが影響しています。かつて中国事業が競合との価格競争ではなく高付加価値商品で勝負してうまくいったように、インドも競合と異なる「カップヌードル」の高付加価値化等により売上と利益を伸ばしていきます。インドネシアは順調に売上を伸ばしていますが、マーケティング費用がかかっているため赤字になっています。

米州は、アメリカがハリケーンの影響で物流費が高くなっています。この物流費は今後ネックになる可能性があります。ブラジルは試食販売によって着実に売上が伸びると思っていますが、南部と北東部では実質違う国で、カップヌードル戦略においては経済状態の良い南部を中心に伸ばしていく考えです。北部の方は廉価版袋めん「NOSSO SABOR」等でしっかり伸ばしていきたいと思っています。

中国は、大陸において上場に向けた内部体制の変更を進めていた影響もあり、若干伸びが悪く見えますが、今後しっかり伸ばしていきます。また、「合味道（カップヌードル）」に加え、更に価格の高い「拉王」を中心に高付加価値の即席めんとエリア展開で伸ばしていく考えです。これらがしっかり伸びると、新工場の償却負担を十分にカバーできるようになります。香港は成熟市場のため、「合味道（カップヌードル）」のバリエーション展開に加えて、ポテトチップス等マルチ展開で売上と利益を伸ばしていきます。

Q. 香港の MCMS 社の増収の影響はどの程度ありますか。

A. 香港の売上は第3四半期累計で+27%ですが、そのうち、およそ+20%が MCMS を新規連結した効果です。香港と大陸を合わせて中国全体では約 8%が MCMS による増収効果です。

Q. 中国の営業利益率が下がっていますが、MCMS 社の影響や償却費の影響があると思いますが、その点を確認したい。

A. MCMS 社を新規連結した影響で利益率に関しては少しミックスダウンしています。また大陸では浙江工場の償却費増が利益にマイナスに影響しています。香港の袋めんの償却費増は「出前一丁」が好調なのでカバーできていると思います。

Q. 国内事業の値上げについてはどのように考えていますか。

A. 原材料について、小麦の価格が上がっています。一方で直近の為替は円高傾向のため、原材料コストの上昇を為替で相殺できるのかを確認する必要があります。また働き方改革の影響で、人件費は上昇してくる可能性があります。物流費は現時点では抑えられています、日本だけではなく世界全体的に上がる傾向にあります。

値上げについては常にテーマとしてあがっていますが、喫緊の課題かどうかで見た場合、今はまだ国内で値上げする段階になっていないと考えています。

以上